いずみ
発行所
福井県大野郡
和泉村公民館
印刷所　松浦印刷所

和泉村初の議会議員選挙終る

投票率は九四・二九パーセント

合併後初の和泉村議会議員選挙は小雨ふる九月二十五日午前七時から村内十カ所に設けられた各投票所で一せいに行われた。定員は二十二名であるが得票結果はつぎのとおりである。

当　二〇四　山内守人53（大納）新
〃　一四五　宇野一雄39（下山）新
〃　一四三　石神東洋37（持穴）前
〃　一三八　三島定男44（後野）元
〃　一一〇　宮本慶治44（久沢）前
〃　一九・五　谷口助三郎55（伊勢）前
〃　一一九　家木為則40（中竜）新
〃　一一七・二　池田庄次郎61（大谷）前
〃　一一五　中森小一郎52（下半原）前
〃　一一三　三島良助48（荷暮）前
〃　一〇九　美濃島兼治56（箱ガ瀬）新
〃　一〇九　平野　治35（川合）前
〃　一〇七　古川信男43（野尻）新
〃　一〇六・一　山本清孝45（朝日）新
〃　一〇三　古世真一49（長野）前
〃　一〇二・五　谷口豊成61（上大納）新
〃　九九　長谷川幾江39（上半原）新
〃　九五・一　表　正一42（朝日）前
〃　九五　周戸耕作53（東市布）前
〃　九四・九　山本準人54（米俵）新
〃　八四　田村重次郎39（中竜）新
〃　八一・九　北　正一39（中竜）前
〃　七九　土田兼清41（中竜）前
次　七二・八　池田義正34（中竜）新
〃　七一　白崎儀三郎43（中竜）前
〃　二　尾西初三郎45（中竜）新

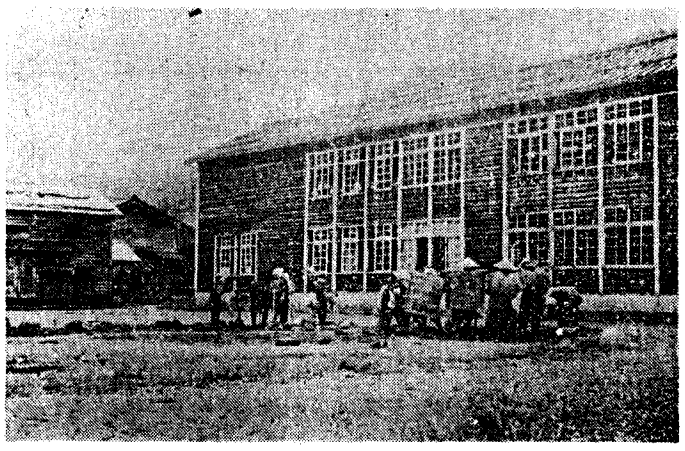
今回の選挙は合併後初の事として村民はもとより内外より非常に注目されていた。立候補者数も定員二十二名に対し二十六名あり非常な激戦であつた。これを投票率から見れば男子は九四・一%、女子九四・六九%、村全体で九四・三九%と高率を示し、いかに関心と熱意の高かりしかを示している。特に当日は雨天であることを思えば一層その感を深くする。或地区に於いては立候補者ポスターも赤青とりどりに貼出され選挙気分は最高潮であつた。

当選者を年齢別に見ると六〇歳台六名（九・一%）、五〇歳台二名（二七・三%）、四〇歳台八名（三六・三%）、三〇歳台六名（二七・三%）と四〇歳台以下が過半数を示し何となく清新さを感ずる。さらに経験別に見ると新一〇、前一一元一となり新人が殆んど半分を示し新旧交代の激しさを示している。

年齢上からも又経験別から見ても新村第一回の期待に対えるにふさわしいと言えるのではなかろうか。而し真価は今後の村政実践にかかつている。村政への熱意と抱負をいだき立候補されながら定員数と言う厳たる法の存するため、不幸当選外となられた方には誠に御同情に耐えない。

当選の栄を得られた新選良の方々はこのことも充分念頭に置かれ高投票率に示した村民の無限の期待と信頼を裏切ることなく、平和村建設の理想に向い、私を捨公に就き最大の努力をいたさるよう切に願いたい。

投票所別	男女別	当日の有権者数	投票者数 普通投票	不在票	計	棄権者数	投票率%	成績順位
村全体	男	1474	1356	31	1387	87	94.10	
	女	1432	1352	4	1356	76	94.69	
	計	2906	2708	35	2743	163	94.39	
第一（谷支所・大）	男	203	189	6	195	8	96.06	6
	女	223	206	0	206	17	92.38	
	計	426	395	6	401	25	94.13	
第二（日進小）	男	170	150	6	156	14	91.76	7
	女	181	173	0	173	8	95.58	
	計	351	323	6	329	22	93.73	
第三（久沢分校）	男	54	48	1	49	5	91.0	10
	女	58	50	1	51	7	88.0	
	計	112	98	2	100	12	89.28	
第四（伊勢分校）	男	56	55	1	56	0	100	3
	女	68	65	1	66	2	97.06	
	計	124	120	2	122	2	98.39	
第五（荷暮分校）	男	68	62	0	62	5	91.18	9
	女	86	81	0	81	5	94.19	
	計	154	143	0	143	11	92.86	
第六（東市布分校）	男	34	34	0	34	0	100	2
	女	29	28	0	28	1	96.55	
	計	63	62	0	62	1	98.41	
第七（朝日小）	男	221	204	11	215	6	98.29	4
	女	232	217	0	217	15	93.53	
	計	453	421	11	432	21	95.36	
第八（公会堂・中竜）	男	524	478	3	481	33	91.79	5
	女	394	377	1	378	16	95.94	
	計	918	855	4	859	49	93.57	
第九（野尻分校・後）	男	79	74	1	75	4	94.94	5
	女	89	85	0	85	4	95.51	
	計	168	159	1	160	8	95.23	
第十（下山小）	男	65	62	2	64	1	98.46	1
	女	72	70	1	71	1	98.61	
	計	137	132	3	135	2	98.54	



〔泥土に愛情の雨が降る〕　長年の風雨で土は流れ土中の岩が頭をもたげ、子供の運動に危険があることを見た朝日小学校PTAでは、赤土運搬の校庭整地作業へと発展し、9月10、11の両日折からの雨風を物ともせず運搬、整地の二班に別れ尊い労力奉仕作業を行い、運動場を生れ変らせた。尚一般区民も多数応援参加した。〔写真は土盛前の整地作業〕

班別研究で成果上げる

第一回　和泉村社会教育研究大会

九月十三日秋晴れの好天気に朝日小学校において午前九時から村第一回の社会教育大会が開催され、村議、教育委員、学校長、社会教育委員、青年団、婦人会、PTA等総数八十余名が参加、講師には県社会教育委員道関文氏、県教委大野支局長鈴木信治氏、大野市公民館長中村奥衛氏、社会教育主事斎藤忠氏を招き終始活発な論議が展開され村社会教育発展のため記念すべき有意義な一日であつた。

九時から十一時まで映画観賞、十一時から十二時までの鈴木支局長の講演は、戦後の日本の復興は社会教育の充実発展によつてこそ期待するものがあるゆえんの大熱演で感銘を与え、午後の班別研究においては村の社会教育機構の拡充ないし公民館活動の促進から団体活動の為の集会集合のためには村公休日の制定等楽しい村造りの真剣な討議が交換され、更に全体会議に於てこれらの検討された問題が速かに実施されるよう強力な措置と実践が要望された。

道関委員並びに中村館長の講評に、きょうの大会に村内最高の有識者がもれなく参集、そのまじめな研究討議のようすは村民がいかに社会教育に熱意を持つているかを示す証拠であつて、この機運を遅退させることなく新村の基盤となる社会教育を、公民館を中軸として促進するよう格段の努力がされたい旨の希望があつて盛会の中に会を閉じた。当日の班別研究の要旨次の通り

▽第一班―会合に出易くするにはどうしたらよいか。

主催者として反省すべき点は集合場所、日時及び会の趣旨を徹底させること。会合の効果を多くする。

出席する者は家庭内の相互の理解を深める。個々人の責任と自覚を強めること。

共通の問題として終始の時間を厳守すること、特に村に公休日を定めることによつて会合の便を図ることを切望された。

▽第二班―文化活動を促進するにはどうしたらよいか。

主として青年婦人の団体を主として討議され、婦人青年の教養を高めるため講演会、講習会を多くし、団体の他町村の見学旅行によつて見聞を広めて行くこと、特に部落ごとの読書、料理、生活改善4H等のクラブ活動を促進する方法を取ることがよい。

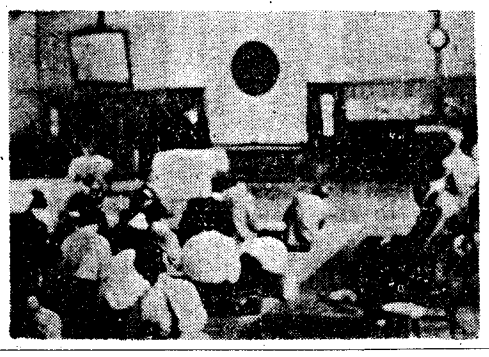
▽第三班―楽しい村造りはどうしたらよいか。

楽しい村には幸福な人が住む。まず個々人の幸福を中心として全体が幸福になるため、村の経済のあり方、家屋の様式、交通、通信から地域的に恵まれない人々のため村内の有線放送施設等が必要である。

▽第四班―社会教育のあり方はどうか

村社会教育の中軸機関である公民館の趣旨を徹底させ、これが活動を促進させるため速かに機構を整備し、村の実態調査を行い村の行政や村民の生産活動と不離一体となつて新しい村造りの基盤を育成すべきである。

熱心な討議の社会教育大会（9月15日朝日小学校）



県主催で木炭品評会

10月20、21の両日　小浜市で

林産振興事業の一つとして製炭技術を公開し、生産の増強と品質の改善を計り福井県木炭の声価を画期的に高揚せしめるために実施された木炭の県営検査二十五周年記念行事として、福井県木炭品評会が、十月二十、二十一日の両日、小浜市竹原の小浜中学校において開催されることになつた。

一、趣旨

木炭は最近、ガス、煉豆炭、灯油、その他いわゆる近代的な燃料がいちぢるしく進出しているにもかかわらず家庭燃料としては、なお主要な地位を占め国民の生活と密接不離の関係にある。而して本県の木炭は毎年二百八十万俵内外を生産し、そのうち百万俵内外は遠くは関東方面に近くは関西重要都市を始め石川、富山に移出され本県の山村経済の維持振興に極めて重要な産業であるので、この生産の増強と品質の改善方法については常に研究されなければならない。県はこの伸展を期するため毎年諸種の施策を講じているが業界も亦これに協力した結果相当の成果を収めている。然し自由経済下に於ける全国的な販売競争の盛んな情勢の下では製炭技術の向上、品質の改善こそ最も重要な問題と認められるので茲に木炭品評会を開催して、この目的達成の一助にしようというものである。

一、出品木炭　木炭の農林規格と本県の木炭格付上の指導方針に準じて調製するものとし、特に技巧を擬らして加工調整しないように注意するものとする。

一、賞状並びに賞品および参加賞

優等（三点）

農林大臣賞状（見込）賞品

一等（二十点）知事賞状賞品

二等（六十点）知事賞状賞品

三等（二一七点）知事賞状賞品

参加賞（出品者全部）記念品

右のとおり木炭品評会が開催されますから生産者各位はかならず一俵ずつ出品し、すこしでも品質の良い木炭をだして一人でも多く入賞されるよう望みます。

恐ろしいスギの赤枯病

かかつたら焼きすてる

スギ苗の地際針葉より赤褐色～褐色に変色し始め、次から次へと上針部にいたり遂に枯死してしまうことが多い。そればかりでなく、罹病苗を中心にして漸次まんえんして苗畑全部が枯死する場合もある。昔は赤枯病を山出ししたなかつたようにあまり気に止めなかつたように考えられるが、最近伊藤博士により赤枯病菌による「溝腐病」と断定された。今後は山行苗を厳重に選択して無病健全苗を植栽するようお願いしたい。

〔発生の時期〕　春から梅雨期にかけて発生し易く六、七月ごろ多くの分生胞子ができ、第一次の感染源となる病状は七月頃から秋にかけて現われる。

〔被害部位〕　スギの地上部被害は地際部から上へ広がる。

〔防除方法〕

一、六斗式ボルドー液を四、五回散布すること。又は石灰銅粉剤二号を散粉機にて四、五回散布する。

二、罹病苗は早く発見してぬき取り焼却すること。

三、窒素肥料を多く与えないようにして燐酸肥料を多くすること

（注）　ボルドー液の正しい作り方は森林組合又は農協へ御問合せ下さい。

婦人のくらし

農村の人口と計画出産

「農民の多産」と言う事がよく言われているが、しかし農民はこれまで、ただ野放図に子供を生んできたわけではない。戦前の我が国では、農民が一夫婦当り一生の間に生んだ子供の数は平均して五人余りと言うが、昔カナダの沃野に移住して来たフランスの農民は、生涯に一夫婦当り平均二十人位、子供を生んだのが普通だと伝えられている。それに比べると日本の農民はすでに戦前からやはり随分制限してきた方である。一人々々が勝手に生んでいるようでも、大きな目で見ると一定の社会的な抑制が働いており、一定の規則的な法則が支配していると思う。

子供を一定の数で止めようとする力は経済向上の法則であると思う。戦前我が国の農民は平均五人余りの子供を生んだが、それでもやはり勤め人や商工業者に比べると一番多産であつた。その理由として

(1)　家族労働を中心とする―日本の小農経営の場合は特にそうである。だから統計を見ても大きい農家ほど多勢の子供を生んでいる。しかし子供が成人してくると農地に限りがあるので二、三男は村や家を離れねばならぬ。ところが戦前の日本は都市の産業が絶えず新しい労働を農民に求めていたので農家は成人した二、三男をたやすく離村させる事ができた。また都市の産業も農村の労働力なしではやつて行けなかつた。戦前及び戦時は、このように農民と都市との人口需給関係がちょうど良い具合になつていたのである。これがまた農民の出産を高めた第二の理由である。

しかし戦後の事情は一変した。第一、都会の子供が大量に労働市場にくるようになつた。第二に日本の経済が機械的にも高度化するにつれて昔ほど労働力を必要としなくなり、第三に戦後死亡率が少くなり、農民は今まで通り子供を生んでいてもそれでは当然余つてくる勘定になる。つまり農民はこの余つた人口のなやみから解放されるには計画的に子供を生む事以外にないと思う。もしこれがために生ずる家族労働力の不足が心配されるのならば、それは農作業の機械化や経営の合理化で補つて行くより外はない。

役場だより

慰霊祭執行九月六日朝日小学校、九月七日大和小学校において今泉俊英師を導師として仏式により盛大に執行し、英霊よ永えに安まれかしとお祈りしました。

人間の主体性と美の追求

やれマンボ、それヘップバン、あれカリプソ等々、何と数多くの変化が人間生活を追い立てている事か。現代人はよく神経衰弱にならないものだと感心する。歴史をみると風俗の変遷には長年月を要しているが、実に現代は不思議だ万事スピード時代と言えばそれまでだが、私は思う。これは水上の浮草でその下を流れる人間性は変化はない。より美しくみせたい、なりたい願望の一変化に過ぎない人間の美の追求は尚続くだろう。

筆のさんぽ道

九月十三日、朝日小学校において社会教育研究大会が開かれた。とかくこうした大会には出席しにくいものだ。ここに問題がある。しかし実際は多数の出席で盛大であつたが大成功と楽観はできない。成功か否かは今後にかかつている。大会のための大会に終つてはならない。毎年同じ繰かえしが続いてはならない。実践いかんが成否の鍵である。実践によつて来年度は新しい見解、悩みも生れ自然と足を大会に運ぶにいたるであろう。今度の大会が直接我々の実生活に食入り、根をはることを期待する。

○

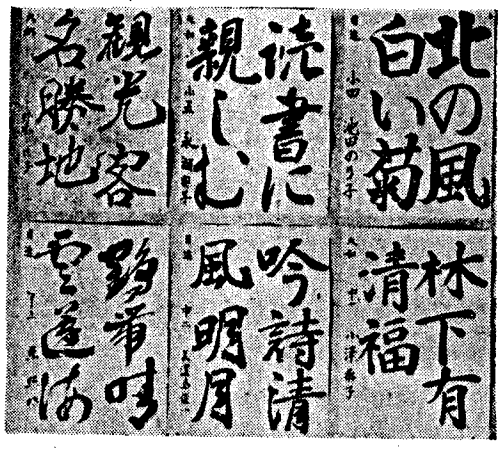
いよいよ実りの稲穂を手に多忙の時が訪れてきた。ことしのような天候で、これまでにできたのは農業技術が行き渡り村民が知識を実行に移した贈物である。

民主主義は言論の自由で、とかく現代人は口が動いて実行が少ないものだ。知識に実行が伴つてこそ本当の知識といえるであろう。もう一度お互いに自分を見つめてみたいものだ。

天高く馬肥ゆるの時、収穫の喜びに浸る人は、知つて苦労を通り越し実行した者に与えられた大きな喜びである。

朝日中三　村下　清子

草刈に道々こぼす野ぎくかな



特選六勇士（競書会成績　穴馬部会）

日進大和中学校の修学旅行

日進、大和両中学校三年生全員五十二名の合同修学旅行は例年の通り関西方面に行われた。一行は長谷川大和中学校教諭以下四教諭に引率され九月十八日早朝和泉村を出発、名古屋、大阪、福井などの各名所をたのしく見学し、二十一日朝、三泊四日の行程を終り全員元気に帰校した。

教育の「まど」

部会競書大会終る

九月十六日第六回穴馬部会の競書大会が開催され、四年以上各学年六名計一九八名の選手によつて熱戦が展開され、多数の力作が出来上り児童、生徒の平素の熱心な学習の程がうかがわれ関係者一同喜んでいます。当日の成績は左の通り。

特選六、金賞十二、銀賞十八、銅賞三十六

日進中が優勝

奥越中学陸上競技大会

九月十四日、朝日中学校校庭で奥越二村五中学校が参加し、晴天に恵まれて大盛況裡に競技が実施された。本年は学年別の選手参加で生徒の大部分が各種目に出場、和気あいあい中学生らしい明るい競技が展開された。当日の成績は次の通りである。

優勝　日進中学校
准優勝　石徹白中学校
三勝　大納中学校
四勝　朝日中学校
五勝　大和中学校

運動場の土もり

朝日小四　平野孝雄

運動場でぼくたちのために働いているお父さん、お母さんたちが汗をどうどう流しながらその汗をふこうともしない。お父さん、お母さんたちが顔を上げた。まるで黒ん坊のような顔、その顔を見ると悲しくなつた。少し休むとすぐ仕事にかかる。

仕事から帰ると何一つも口の中に入れない。家へはいるとすぐ家の仕事にかかる。ふらふらしながら仕事をしている。ぼくはごはんのしたくをしてあげたら、うれしそうな顔をしていた。

俳句

大和中一　古川　直澄
朝顔にゆれて行くかな白いバス

大和中一　阿部　久枝
親たちが稲作見ては笑顔する

大和中二　若山八千代
いも掘りも過ぎて近ずくお盆かな

大和中三　若山　宣子
田植すみどこへか馬は売られいく

詩

めんよう

下山小三　清水清和

うちのめんようは
まだ　ぼくをおぼえていないのか
きのう　小やに入つたら
ぼくをついた
「こら」といつてたたいたら
お父さんにしかられた
「もうたたくな　あしをたたいたらおこるぞ」といつた
お父さんが家の方へ行つたので

和歌

朝日小六　小谷ふさ子
運動場あそぶ時にはせまけれど
そうじの時は広すぎるなり

朝日小六　森尾　晴美
るす番でお菓子あるかと茶の間に
行けば
妹も来ていて顔見合わせる

朝日中三　猿谷　文子
谷川の手にくむ水に影おとす
赤いもみじ葉水はおいしき

ぼくは
「あしたついたらおこるぞ」といつた
めんようはしらん顔をして
小やの中をぐるぐるまわる

あさ

朝日中三　山田美代子

五時三十分、窓をひらく
川の音、雨戸の音、鳥の鳴き声
それらにまじつて、時々、自動車の雑音
何もかもが一せいに目をさましたのだ

×

農夫が一人
忙しそうに
窓の下を通り過ぎて行く

×

いつの間にか
東の空が乳色に溶けていた
朝もやのすき間から
陽が見える

つばめ

大納小四　竹本洋亮

つばめが三羽
電線にとまつている
口と口とをよせて
ひそひそ話をしている
「この家にすを作ろう」と
そうだんしているのかな

ぼくがつばめをみあげると
つばめもじつとぼくを見ている

としよりの日

朝日小四　末永みち子

おじいさん、おばあさんは
りつばな人だ
いま家にある田や畑は、ぜんぶ
おじいさん、おばあさんのものだ
もし、いきていなかつたら
田も畑もないのだ
おじいさん、おばあさんは
りつばな人だ
だから、としよりは
大せつにしよう

皆さんへ感謝

皇居清掃旅行を終えて

私ども三十二名の婦人会員が、今度村当局その他皆さんのご理解のもとに皇居清掃旅行をさせていただき、終生忘れる事のできない思い出をのこして無事帰らせていただきました。平素はとても入れていただけない皇居の奥まで入れていただき、私どもは義宮さまのおすまいのすぐ近くで三日間清掃させていただきました。さすがに入れていただく時には毎日人員点呼をして入りました。三日目の最後の日には、天皇、皇后両陛下が私どもの近くまでおいでになつておことばをいただきました。

あとからふりかえつて見ますと七十近い年よりのお方もありましたから、やむを得ないこともありましたが、中には余り団体行動をとらずに係の方にお手数をかけたことは、お互いに今後気をつけたいことだと思いました。

私はこの感激多かつた旅行をおえて、この旅行をさせて下さつた村当局の方々、また行きたくても家の都合で行く事のできなかつた方の事を思つて、これを理解してくれた家族の者に感謝し、両陛下のますますご健勝にわたらせられますことを心からお祈りしています。

（M女）

下穴馬地区敬老会

九月十五日老人の日に下穴馬婦人会主催の敬老会が朝日中学校に於て開催され和泉村青年団の楽団並びに歌謡劇等の熱演によつて老人たちを慰め長命と健康を祝福した。

生徒の日記より

大納中二　井田雪子

八月一日　今夜はとても星の美しい夜なので星を眺めようと思つて表向きの窓にいすを持つてきて星を眺めることにした。ちようど窓の正面には北斗七星がきれいなひしやくの形を作つている。いつもならはつきりわからないのに、今夜はどの星も一つ一つがはつきりと美しい光を放つている。

まるで高い夜空に電灯をぶらさげたように、あの一つ一つの星に

部落探訪 ①

久沢の平家の墓

平家が岳は旧上穴馬の東南にあつて海抜一、四四一米の高い山で岐阜県武儀郡の板取村、本巣郡根尾村はこの南のふもとにある。頂上は高原状の灌木地帯であるが、これから南方を望むと濃尾平野の木曽川と長良川の合流するあたりが眼下に展開する。昔、平家の残党がこの地にこもつて再起を企てたと伝えられ、平家が岳の名もこれからでたものである。

久沢部落の南方二粁の山中に持臼という所があつて、ここに大小九つの墓がある。中央の墓は八寸角程で、地上の高さは四尺ばかりで、左右に順次に低くなつており左端の墓石に三つの彫刻があるが他は無地である。伝説によると、これは平家残党が潜伏した時の通路で、岐阜県本巣郡の明神山に通ずる嶮路な道あとがあり、明神山の中腹にも同様の墓があり、これは平家九盛の墓と伝えられている

墓の下を掘つてみたらどうだろうか。何か珍らしいものでもでまいか—以前にもそう考えた人があつて少しほりかけたら、そのうちに自分の家が焼けたという。以後誰も掘つた者はない。

金の茶釜と壺は古色蒼然として何れも茶室用のもので、茶釜は質的にその名の如く大したものであり、茶壺は南ばん渡来のものとして戦国争乱時代のものと認められる。特に刀は天藤の名刀として刀剣中の逸物である。

古来清水家は奥州孫左衛門と称し源氏の系統と伝えられ、今も旧屋形跡の敷地には家の非常に備えて黄金が埋められてあると伝えられる。古い家にはどこでも家宝を所持しているが、清水家のものは三点一対、しかもその一つ一つが極めて貴重なものであるだけに定めし由緒の深い書ものがあつたのに、火災で焼失されたのは惜しいことである。

（家宝の茶釜と茶壺）

下山部落清水家の家宝

金の茶釜と茶壺のほかに刀剣一ふりと合わせて三点一組が清水家の家宝である。

参加者は60名

青年団第一回キャンプハイヤー　統合第一回の試みとして8月31日、9月1日の両日面谷に於て開催、山の霊気を胸一ぱい吸い、地域研究講義設営、えい火炎事と多種に亘り若人の意気を煽やし、村内各地区より60名が参加し多大の収穫を収めた。

〔写真は屋外教室の講義風景〕

思い出の面谷キャンプ

詩

深谷　佳広

ローソクが揺ぐ
君と語り君と笑う　テントの中
話がはずむ　手振りよく
話せ　話せ
御飯炊きはむずかしい
だがご飯はおいしい
うん　自分が作つたから

短歌

永瀬とみ江

明け方や夕べのにぎわいどこへやら
テントも霧にうす眠く見ゆ

鳥山　則子

くら闇の中に燃え行くローソクの
テントの前でレクレーション

田中　太三

行先の道のよし悪し知らさしめ
昨日今日よと歩む道ぞよ

別世界

田島　丈治

秋空に砂山か、砂山の古い木々のくぎりがくつきりと突立つ。涼風が河原で昼食準備の若人の頬をかすめて通る。青いたき火の煙が風にゆれて秋空に立ち昇る。そこではハンゴウで御飯をたいている

日々の悩み多い「シャバ」の生活から抜け出して、一歩別の広い世界、若人の世界へ来たようだ。

ドライと言うか、また生存競争から抜け出た教育的世界とでも言おうか。西部劇に出てくるような広大な赤肌の山々を眺め、そして荒果てた面谷部落の跡を歩きながら、これが生気ある和泉村とは思えない静かさだ。

いろいろのなぞがあるなんて私は信じられない。もし、この永遠にはてしない夜空に輝く星の中に、人が住んでいるとしたならば、きつとあの星の光のように美しいに違いない。私はいろいろと空想を描きながら、もし星の世界の人たちに会つたらどうしようかなあとときどもないことを考えていたいつか私は楽しい夢の世界に住んでいた……

私はまた自然に星の世界にひきつけられていくような気持で星空を眺めていた。山のかなたの遠空に、この地球の人々を見守るかのように美しくそしてやさしい光をたたえた「よいの明星」が、ひときわあかるく輝いていた。

慶弔欄

一、出生

（伊月）谷口磯雄三男　典雄
（貝皿）吹屋与市三女　美千代
（角野）新井和己二男　国昭
（伊勢）徳本庫吉四男　秀孝
（上半原）美濃島幸一郎長女尚子
（米俵）杉山務長男　康昌
（伊勢）山田秀雄長男　博
（下半原）木島国光長女　みどり
（伊勢）清水仙太郎三男　澄
（面谷）蠟屋長女　智恵

二、婚姻

1 上大納　谷口・雄作
伊勢　福島みよ子
2 南牟婁郡市木尾呂志村下市木
阪口　茂道
3 朝日　下出みちゑ
下半原　石神　元司
大谷　若山しず枝
4 米俵　杉山　務
岐阜県郡上郡大和村島
尾藤　公子
5 上大納　辻　幸三郎
上大納　古川八重子
6 上半原　小椋　久司
上半原　三島　ちよ

三、死亡

（大谷）池尾裕二郎（三）
（東市布）田中そう（八〇）
（上大納）村下ゆい（八三）
（面谷）菊川みき（七六）

観月句会（中竜）

松橋紀代二選

特選　大井　一徹
十六夜のどつと冷えけり鉱山の雨
〃　福沢　竜峯
望の月拝むそれより鉱石を択る
水害の故郷を遠く月今宵
〃　猪俣　信也
トロ押しのまたもどり来しダムの月
鉱山の月配電塔にひつかかる
佳作　杉本　政子
九頭龍の川面に砕け月の影
〃　江島　才夷
月無くて壁かけの句のとりどりに
〃　計石かすみ
雲間漏る月光明けく鉱山社宅
〃　太田一竿子
立待の月に鉱山人あぐら句座
虫燻す炎に近くちちろなく
〃　中出よしの
妻の下駄ふとつつかけて月を見に

（編）（集）（後）（記）

◇第一回村議会議員選挙も無事終了しまして誠にめでたく感じます
◇多忙の月でしたが多数の原稿をいただき、ありがとうございました。
◇紙面の都合で一部掲載もれになりました方に深くおわびします。
◇次号は十一月一日発行の予定です。